

JR 只見線に乗って 冬の奥会津を旅して

今年の歳始めの年末年始、コロナ感染のために、東京へ戻れなくなりました。そのこともあって、12月に只見線に乗って、1泊の旅をしました。

皆さんは、「こたつミカン」という言葉を知っていますか？台にミカンを置いて、こたつの中に入って、新聞や本を読むことです。眠たくなれば眠ります。正に人生至福の時です（休みも少なく日夜働いている医療や介護従事者の皆さん、御免！）。

私にとっては、こたつが電車になります。「乗り鉄」ではなく「読み鉄」です。東北の列車は乗客が少ないので、始発駅から20分も経てば、向かい合わせの席が独り占めです。前の座席に足を伸ばします。

只見線は、2011年 月（東日本大震災と同じ年）の只見川の大水害によって、現在越後川口駅⇄只見駅間が不通になって、バス代行になっています。

JR 東日本は、黒字なので、国からの災害復旧の交付金は支給されません。JRは、「災害に逢った赤字ローカル線は、復旧しないで廃線にする」という考えです。只見線は、福島県や地元市町村そして、只見線応援団（私も会員）の粘り強い運動によって、復旧することができました。しかし、これからは、線路の維持管理費は、福島県と地元自治体が負担します。世界で第三位の経済大国の日本、鉄道さえも災害から守れないのです。

12月は未曾有の大雪でした。そして、奥会津は豪雪地帯、前日までは、只見駅⇄小出駅間は普通でしたが、幸いにも今日から復旧しました。寒い豪雪地帯の中で、日夜鉄路を守る保線の人達に、感謝感謝です。

只見線は、日本で一番景色の良いところを走る鉄道です（このように自慢している鉄道は多いですが）。確かに、“春の桜・夏の新緑・秋の紅葉・冬の雪景色”と、四季折々の景色を楽しむことができます。寝てるわけにはいきません。

途中駅から、地元の人が乗ってきて、車内販売や景色の説明をしてくれます。私は女性の人と目が合ってしまい、只見線のカレンダーを買うことにしました。

只見線のビューポイントは、4か所の橋梁（鉄橋）です。社内のスピーカーで、橋の説明をしてくれます。電車も、橋のところに来ると、一時停車します。本当は、鉄橋を渡る電車を撮りたいのですが、車窓から只見川に移る景色を撮ります。途中には、“夢幻峡”という場所があって、只見川に、朝霧がかかります。

只見線は、来年には全線が復旧する予定です。正に地元にとっての生命線です（道路が災害や豪雪によって寸断された時のバイパス）。地元で愛される鉄道、沿線住民や子供達は、電車を見たら手を振る運動を繰り返しています。

今回は福島県民の旅行割引で、民宿の宿泊費は5千円割引になって、3千円でした。



【水墨画のような只見川-遠くには国道 号の鉄橋（第 橋梁付近）会津中川駅手前】



【只見線小出行（只見駅）一雪でもホームは除雪してある】

【JR東日本と福島県・地元町村との基本合意書及び覚書の締結（主な内容）】

- ・ JR東日本が会津川口～只見駅間を鉄道で復旧。
福島県：鉄道施設及び土地を保有（第三種鉄道事業者）
JR東日本：保有車両を運行（第二種鉄道事業者）
- ・ JR東日本は、復旧工事完了後、鉄道施設等を県に無償譲渡。県は維持管理を実施。
- ・ 復旧工事費用の負担割合 福島県と会津 17 市町村：3 分の 2、JR東日本：3 分の 1